

新潟市道路橋の維持管理 基本方針(案)～戦略的な維持管理体制への深化～

1 道路橋の概要と課題

- 新潟市橋梁長寿命化修繕計画(平成22年度)
- 新潟市財産経営推進計画(平成27年度)

大規模橋梁 L=15m以上	640橋	16%
小規模橋梁 L=15m未満	3,400橋	84%

道路法改正に伴い
全道路橋の点検が義務化
(平成25年度)

新たな課題
○点検(近接目視)

全道路橋の点検義務化による点検費の増大
全道路橋の点検義務化による点検者の不足

以前からの課題
○修繕費の増大
○老朽化の加速
○その他

耐用年数間近の橋梁が増加
汚れによるサビ・腐食の進行
施工時期が冬期間(年度末)に集中し、品質確保が困難
点検結果の妥当性評価

新潟市橋梁アセットマネジメント
検討委員会(産・学・官の連携)

2 基本方針

戦略的な維持管理体制への深化を図る!

(1)新潟市橋梁長寿命化修繕計画の見直し → **ソフト対策**

(2)コスト縮減・品質向上などに資する契約方法の検討 → **ハード対策**

3 取組 (1)ソフト対策

- 戦略的な修繕計画の策定
- 効果的な維持管理の推進
- 点検・診断体制の強化

(2)ハード対策

- 予防保全と生産性向上によるコスト縮減
 - 年間業務の平準化、工事の更なる品質向上
 - 点検者不足の解消
- モデル事業(社会実験)**
- ①事後保全脱却モデル
 - ②長寿命化推進モデル
 - ③小規模橋梁の点検モデル

取組の概要(案)

4 取組の現状 (1)ソフト対策

- ◎ 戦略的な修繕計画の策定 → **橋梁優先度の見直し**
(現行) 損傷に応じた健全度と、重要度・交通量に応じた管理区分で評価
(見直) 現行評価に加え、長寿命化(予防保全型・事後保全型等)、更新といった指標を追加
 - ◎ 効果的な維持管理の推進 → **新たなメンテナンス方法の導入**
日常的な管理による更なる長寿命化の推進を追加
 - ◎ 点検・診断体制の強化 → **健全度審査会議の設置**
受・発注者と第三者機関による「健全度審査会議」で低い健全度の妥当性を評価
- **新潟市橋梁長寿命化修繕計画の見直し(平成28年度内のとりまとめを予定)**

4 取組の現状 (2)ハード対策

①事後保全脱却モデル

◎ **橋梁修繕のスピードアップを図る**ため、設計と施工を同時に発注

従来方式
(設計) 積算・契約 → 設計 → 設計完了から工事開始まで時間差 → (施工) 積算・契約 → 工事

モデル事業(社会実験:イメージ)
(設計) 積算・契約 → 設計 → <調整会議> → (施工) 積算・契約 → 工事 → **全体工期短縮**

12橋予定

期待される効果
○工期短縮
○年間業務の平準化
○品質向上

②長寿命化推進モデル

◎ **長寿命化を図る**ため、橋梁に見合った細かいメンテナンス方法を検討

- メンテナンスサイクル(日常管理→劣化予測→補修→モニタリング)を確立(H29)
- メンテナンスサイクルで社会実験を行い、妥当性を検証(H30以降)

期待される効果
○長寿命化
○コスト縮減

③小規模橋梁点検モデル

◎ **簡便なシステムを利用した点検手法**により、小規模橋梁の点検を簡略化

従来方式
15m未満の橋梁についても、コンサルタントに委託し近接目視点検

モデル事業(社会実験)
タブレット端末による橋梁点検を地元建設会社などへ委託

数十橋程度

期待される効果
○点検者不足へ対応
○災害時の体制強化
○生産性の向上

◎ モデル事業(社会実験)スケジュール

モデル事業	平成28年度	平成29年度	平成30年度以降
①事後保全脱却モデル	債務負担行為	社会実験	効果検証
②長寿命化推進モデル		メンテナンスサイクル検討	社会実験 → 効果検証
③小規模橋梁点検モデル		社会実験	効果検証 → 社会実験 → 効果検証